



年 組 名前

道新でワークシート

収穫期控えたタマネギに花

「ネギボウズ」農家悩ます

岩見沢

タマネギの道内有数の産地として知られる岩見沢市内や周辺で、収穫期を控えたタマネギの一部に花が咲く「ネギボウズ」が発生している。6～7月の日照不足などの影響とみられ、地中のタマネギにしんが入り商品価値がなくなってしまう。収穫時に通常のタマネギに混入するのを防ぐため、各農家は手作業での抜き取りに追われている。

(中沢弘一)

初夏の長雨影響か

空知農業改良普及センターによると、ネギボウズは「とう立ち」とも呼ばれ、

専門用語で「抽苔」と言ふ。ほ場によって発生割合は異なるが、今年発生が

目立つといいい、同センターの担当者は「これほどの抽苔が発生したのは、ここ数年ないのでは」としている。発生原因は、6月中旬～7月上旬の日照不足と長雨



「ネギボウズ」が発生した岩見沢市内のタマネギ畑

とみられる。岩見沢の6月中旬～下旬、7月上旬の日照時間はいずれも平年の半分程度。降水量は6月中旬～下旬が1・8倍、7月上旬は4・2倍にもなった。

いわみざわ農協管内(岩見沢市、三笠市など)のタマネギの作付面積は1241畝。8月下旬～9月上旬に収穫のピークを迎える。

岩見沢市栗沢町の農家高柳賢司さん(55)は「とうが立ったものは規格外で出荷できない。6月の日照不足が響いた」。ネギボウズが付いたタマネギだけを機械で除去できないため、抜き取りは全て手作業。「収穫前のただでさえ忙しい時に、余計な仕事が増えてしまふ」と困り顔だ。

ネギボウズの発生割合は、品種や苗の定植時期などが関係しているとみられる。同市西川町の農業男性(67)は「うちの周りの畑では(発生率が)全体の1～3%くらいじゃないか。収量への影響はほとんどないが、今年は全体的に球も小さく、収穫まで心配は続くと話した。

2018年8月11日朝刊空知版

①「ネギボウズ」の発生割合が比較的少ないと思われる農家にも心配事があるようです。どのようなことでしょうか。

②題名(見出し)に「『ネギボウズ』農家悩ます」とありますが、どのような悩みでしょうか。三つ書きましょう。